

● 敦賀総合研究開発センター

センター長就任のご挨拶



うの まさよし
宇塾 正美
敦賀総合研究
開発センター長

4月1日付で敦賀総合研究開発センターのセンター長に就任いたしました、宇塾でございます。これまでの福井大学附属国際原子力工学研究所所長に加えて、センター長を兼任することで、両機関の協力による原子力研究開発の発展に努めてまいります。

当センターでは、地域に根差した技術を目指して、ナトリウム取扱技術やレーザー応用技術の研究開発等を行うとともに、本年始動した福井県の嶺南Eコースト計画に貢献します。

特に、原子力プラントの廃止措置ビジネスをリードする企業群の核となることが期待される福井県の地元企業を支援するために、2018年に整備した「ふくいスマートデコミッションング技術実証拠点」（スマデコ）を有効に活用します。

また、原子力に関係する大学、研究機関が集積した福井県の地域的強みを活かして、研究開発と人材育成の相乗効果を出すべく、産学官連携により共同研究や将来の廃止措置を担う学生等の人材育成にも積極的に取り組んでまいります。

今後とも、皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

原子力ライブラリの運用を開始

原子力機構及び福井大学は文部科学省とも協力し、嶺南Eコースト計画に基づき、「学生等の人材育成のための活用」を目的として、原子力関連の技術資料を閲覧できる原子力ライブラリを、福井大学敦賀キャンパスの図書・資料室内に整備し、5月11日より運用を開始しました。

今後は、内容の充実、活用の促進の取り組みを進めてまいります。



● 本資料に関するお問合せ先 ●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 地域共生部 地域共生課
〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20 【TEL】0770-21-5026 【FAX】0770-21-2045

原子力機構ホームページ: <https://www.jaea.go.jp> 敦賀事業本部ホームページ: <https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>

発行:令和2年6月



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

地域の皆さまへ



荒井 真伸
高速増殖原型炉
もんじゅ 所長

「もんじゅ」において、2月5日より開始した、「燃料体の処理*」作業は、協力会社の方々含め従業員が力を合わせ、6月1日までに当初の計画を上回る計174体の燃料体の移送を終え、今回の作業を終了しました。

当初は130体の燃料体を移送する計画でしたが、順調に移送が進んだことに加え、設備の状態や作業体制等を確認した結果、計画を超えて移送を行うことについて安全上問題がないことを確認できたことから、炉外燃料貯蔵槽に残る燃料体（44体）を順次移送し、炉外燃料貯蔵槽内の174体全ての移送を行いました。一昨年の「燃料体の処理」時に発生した不具合に対する対策が効果を発揮したことが、順調に作業が進んだ要因の一つと考えています。

今後「もんじゅ」では設備の点検等を行い、次回以降の燃料体取出し作業への準備を着実に進めてまいります。2022年に530体全ての燃料体取出しを完了するという第1段階の廃止措置計画の遂行に向けて、引き続き、安全を最優先に、着実に廃止措置を進めてまいります。地元の皆様におかれましては引き続きご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

今後「もんじゅ」では設備の点検等を行い、次回以降の燃料体取出し作業への準備を着実に進めてまいります。2022年に530体全ての燃料体取出しを完了するという第1段階の廃止措置計画の遂行に向けて、引き続き、安全を最優先に、着実に廃止措置を進めてまいります。地元の皆様におかれましては引き続きご理解を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

* : 原子炉の外にあるナトリウム中で燃料体を貯蔵する炉外燃料貯蔵槽から燃料体を取り出し、洗浄した後、水で満たした燃料池へ移送する作業

燃料体の装荷及び貯蔵状況

	取出し開始時	2018年 8月30日 ～ 2019年 1月28日	2019年 9月17日 ～ 10月11日	今回の 作業開 始時	2020年 2月5日 ～ 2020年 6月1日	今回の 作業終 了時	2022年度 取出し 完了時
原子炉容器	370体			270体		270体	0体
炉外燃料貯蔵槽	160体	炉外燃料貯蔵槽から燃料池に86体移送	原子炉容器から炉外燃料貯蔵槽に100体移送	174体	炉外燃料貯蔵槽から燃料池に174体移送	0体	0体
燃料池	0体			86体		260体	530体

注) 燃料池には上記表のほか、過去に取出した燃料体2体を貯蔵しています

● 高速増殖原型炉「もんじゅ」

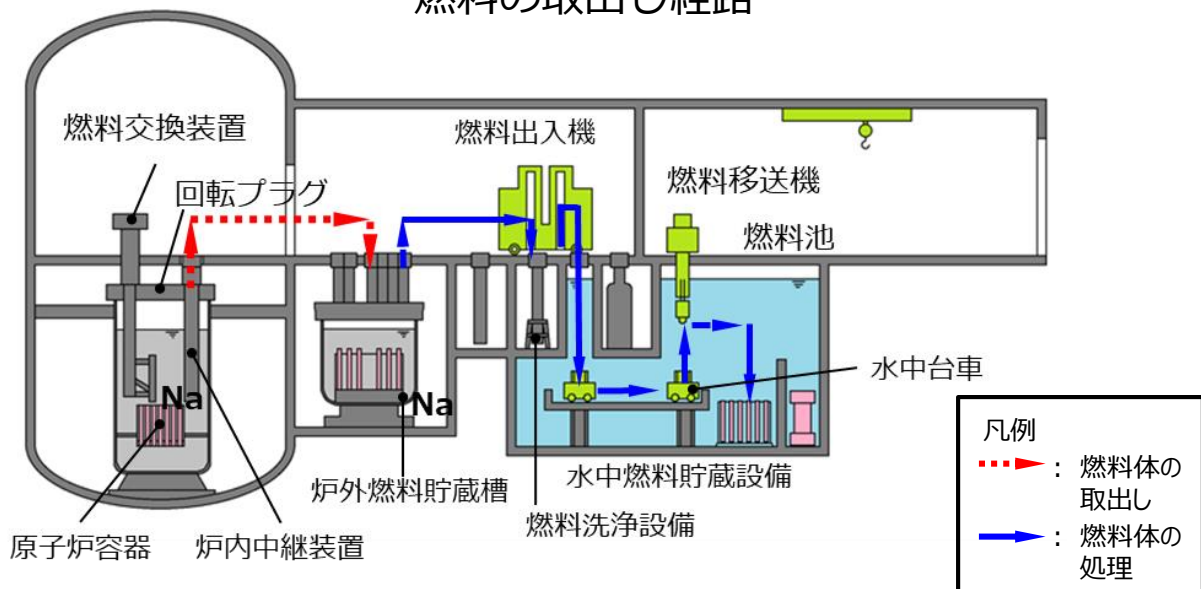
今後の燃料体取出し作業について

これまでの燃料体取出しの実績を踏まえ、設備の改良や操作体制の強化を行っており、今後の燃料体取出し作業の体数を、以下のとおり変更致します。

- ① 2021年1月からの燃料体の取出し体数を146体とする。次々回の燃料体の取出し体数を124体とし、取出したスペースに模擬燃料体は装荷しない。
- ② 取出し体数の変更に合わせて、次回（2021年3月）及び次々回の燃料体の処理体数を、146体及び124体とする。

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
燃料体の処理 (530体) 炉外燃料貯蔵槽→燃料池	2018.8 100体→86体 (済み)	2019.1 100体 (済み)	2020.6 現時点 130体→174体 (済み)	2021.3 ② 140体 ⇒146体	2021.9 ② 174体 ⇒124体
燃料体の取出し (370体) 原子炉容器→炉外燃料貯蔵槽		2019.9 100体 (済み)	2021.1 ① 130体 ⇒146体	2022.4 ① 140体 ⇒124体	2022.6 燃料体取出し作業完了 2022.12
設備点検					

燃料の取出し経路



新型コロナウイルス感染症の感染防止対策

原子力機構敦賀事業本部では、国の方針及び福井県における「県民行動指針」等を踏まえ、以下のような新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策に取り組んでいます。

- 健康・衛生管理
 - ・毎朝の自宅における体温チェック、マスク着用、手洗い、うがい、咳エチケットの徹底
 - ・事務所内の定期的な換気・消毒作業の実施
- プラントの安全維持のための措置
 - ・中央制御室への関係者以外の入室制限
 - ・当直者とその他従業員との接触の回避



- 勤務体制の見直し
 - ・働き方の新しいスタイルとしての分離勤務（シフト制勤務、在宅勤務等）の推進
- 「3つの密（密閉、密集、密接）」の回避
 - ・執務室や食堂での座席空間の確保やパーティションの設置
 - ・施設見学の原則中止
 - ・Web会議等のシステム活用の推進
- 外部からの入構者の管理
 - ・チェックリストによる健康状態の確認、管理の徹底



万一、感染者が発生した場合あるいは感染の疑いがある場合には、保健所、医療機関等の指示に基づき、感染拡大防止措置を徹底します。



原子力機構では、懸命な医療行為が行われている医療機関などで、少しでもお役立ていただけるよう、防護服の提供や機構有志による「心をひとつに ふくい応援」基金への寄付を行いました。

廃止措置の実施にあたっては、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆様のご理解を得つつ、着実に進めてまいります。